

英語**【解答】**

I	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	c	b	d	d	a
II	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	a	a	d	b
III	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	c	a	d	b	b
IV	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	c	a	b	d
V	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	a	a	d	b
	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
	b	a	d	d	c
VI	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	c	b	a	c	a

【学習アドバイス】

例年通り、2018年度の入試問題の構成も、Ⅰ. 会話問題、Ⅱ. 適語補充問題、Ⅲ. 長文問題、Ⅳ. 長文問題、Ⅴ. 文法問題、Ⅵ. 整序英作文の大問6題構成であった。連続する100分で2科目を選択し解答することとなる。普段の授業での学習をもとにきちんと演習した受験生であれば、適切に答えられる時間である。

全体的には、難問などの出題はなく、高校で学習する内容を土台に作られた試験である。必要とされる知識も、特殊な対策が必要なものはなく、とにかく日常の学習の定着が鍵となるものばかりである。その中でも大切なことは、正解選択肢以外がなぜ不正解となるのか、また、選んだ選択肢がどのような点で正解であるのか、と日頃から考えて学習を進めることである。以下、2018年度の問題をもとに対策をアドバイスしよう。

Ⅰ. 会話問題では、会話特有の表現をたくさん覚えるというよりは、会話の流れから、「どのような返答（または問いかけ）が適切か」という観点の問題が主流である。具体的には、空欄の前の発言だけでなく、空欄の後に続く返答もよく見て、指示語などの文法上の情報や、空欄の直前の発言で使われている語句を手がかりにして、空欄の前後の発言にスムーズにつながる表現を選ぶよう心がけるとよい。

Ⅱ. 適語補充問題では、単に単語の知識が問われているのではなく、適切な単語を選択するために、正しく文章を読み解く必要がある。選択肢で挙げられている語彙はそれほど難しくないが、文章で使われている語彙や文法などで多少難しめの表現があるので、ざっと読んで内容を理解する練習だけでは不十分だ。どんな英文でも、SVOCをきちんと取って、日頃から英文を正確に読み解く練習をしておくことが必要である。

Ⅲ・Ⅳ. 長文問題では、高度な知識を必要とする問題はなく、難解だと思われる語句には語注がつけられているので、文章の内容を把握するのはそれほど苦勞しないであろう。問題形式を見ると、空欄に適切な語句を補充する問題や英文を適所に挿入する問題、文章の内容に沿う（または沿わない）選択肢を選ぶ問題などがあり、時間内に文章を一通り読み下し、その内容を把握する力が試されていることがわかる。大問Ⅱとは異なり、日頃から、比較的長めの文章を読むときは、段落ごとに書かれてある内容のメモを取り、一通り読み終えたら、そのメモをもとに文章の話の展開（流れ）を簡単に図などに書き出してまとめる練習を、時間に制限を設けて行うとよい。短い要約文を作るのもとてもいい対策となる。問題集の解答例の終わりに要約が付されているものもあるので、活用するとよい。もちろん、選択肢を選ぶときには、その根拠となる部分にきちんと目印をつけ、選択肢がその部分と正しく対応しているかを確認することを怠らないようにすること。

Ⅴ. 文法問題では、知識に安易に頼るのではなく、文法上正しい使い方であるかをまず確認し、その上で覚えた知識を活用するよう心がけることが、不用意なミスをなくす一番の対策となる。例えば、似たような意味の熟語で使われているそれぞれの単語を調べて、その違いを理解した上で覚えるなど、手間ではあるがその一工夫が確実に正解する力となる。文法というルールの上でおかしな選択肢を見抜く力を養うことも大切な対策である。日頃から、SVOCの仕組みや品詞の使い方を活用して答えを導き出すよう努めたい。

Ⅵ. 整序英作文では、まずSVOCの仕組みと品詞の使い方によって、与えられた語句を並べる練習を行っておくことが大切である。安易に単語の意味と日本語をつなげ、その通りに語句を並べていくだけでは、正しい作文力がつかず、差がつくこの大問で不用意に失点してしまう。文法上正しい英文を作る力を養うことができれば、自ずと正解もわかり、合格により近づくことができる。

以上を参考にして、合格を勝ち取っていただきたい。